



南棟2階東男子トイレ。トイレには自動水栓と水石けん供給栓を設置。手洗いの高さは、低学年を低めにするなど配慮した。

学校
トイレ事例
03
改修

滋賀県大津市

大津市立田上たな小学校かみ

トイレ改修の第一号として 時代に即したトイレに大変身

今の時代の「当たり前」を
学校にも標準でそろえた

2023年に開校150年を迎えた田上小学校は、1873年に前身の学校が創立された歴史のある小学校です。

一方、校舎は築38年が経過し、老朽化が目立っていました。中でも、トイレの劣化は顕著であったといえます。

「私は、地域の方から直接電話を受ける立場にいたのですが、学校へ通う児童の保護者から「多かった意見が『トイレをきれいにしてほしい』というものでした」

そう話すのは、大津市教育委員会教育総務課の清水貴光さん。要望を受け、大津市内の学校現場を回ったところ、トイレの臭い、汚れ、便器やその他の器具の破損など、早期改善が必要だったのが、田上小学校でした。

大津市は現在、長寿命化改良事業として、学校施設の改修工事を進めています。調査結果を受けて、田上小学校のように、トイレの老朽化が進行している学校については、改良事業の順番が回

てくる前に、トイレの整備を先行して行うことを決定しました。

トイレを新しくするに当たり、大津市は、①便器の全面洋式化、②床の乾式化、③温水洗浄便座の導入、④トイレ内の手洗いの自動水栓化、⑤小便器の自動洗浄化を決定。併せて、給排水設備も更新しました。

「内閣府の調査によると、二人世帯以上の家庭の80%が、温水洗浄便座を保有しているそうです。家庭で一般的になっているものを、学校の中にも採用していくと考えています」（清水さん）

こうして、市内の小・中学校55校の第一号として、田上小学校のトイレは生まれ変わりました。大津市では今後、これらを標準仕様として、市内全域のトイレ改修を進めていく予定です。

西村喜雄校長先生は「入学したての児童の中には、ハンドル式の水栓に向かって手を出したまま、動かない子どももいるのですよ」と語ります。

「温水洗浄便座だけでなく、自動水栓に慣れた子どもも増えました。けがをしたときや、手に力



南棟2階東男女別トイレ入り口。感染症対策の観点から、ドアレス仕様に。



南棟3階東女子トイレ内、広めの個室のドア。トイレの内装は木目調に統一。児童からも「落ち着く」と評判がいい。



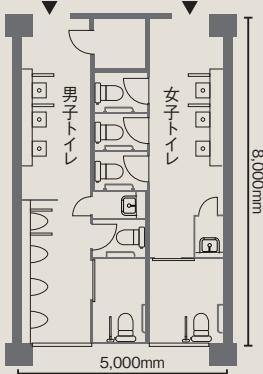
学校内の掲示板。取材時の月の目標は「さ・し・す・せ・そうじで学校をきれいにしよう」。雑巾かけ。掃除用具は使用後よく洗ってしっかり乾かすのが、きれいに保つ秘訣。

大津市立田上小学校 DATA

名称：大津市立田上小学校
 所在地：滋賀県大津市里5-8-1
 児童数：337名(2023年4月)
 施主：大津市
 設計・監理：三和総合設計
 施工：関西設備工業
 竣工年月：2023年1月



●南棟2F東トイレ



コンパクトなフラッシュタンク式の大便秘器を配置することで、個室数を確保した。



南棟3階東女子トイレ。さまざまな利用者を想定し、広めの個室も用意。大便器はすべて温水洗浄便座つき。



南棟3階東女子トイレ。フラッシュタンク式便器を採用し、ゆとりのあるスペースを実現。



南棟2階東男子トイレ。明るい光が差し込む。小便器は床の清掃性に優れた壁掛け式。1カ所には手すりも設けた。



体育館男女別トイレとバリアフリートイレ入り口。それぞれのサインは、シンプルでわかりやすいものを採用。



体育館バリアフリートイレ。ゆったりとしたスペースを確保。バリアフリートイレだけでなく、すべての個室に手すりが備えられている。

(左)清水貴光さん(大津市教育委員会教育総務課)。(中央)西村喜雄校長先生。(右)職員用女子トイレ。職員用のトイレはダークブラウンの木目調に仕上げた。



が入りにくい子どものためにも自動で水が出るのはいいですね」
 改修前のトイレの手洗いは、経年劣化により、きちんと栓が閉まらないなどのトラブルもありました。自動水栓は、感染症対策の面でも、節水の観点からも好評です。

さらに、田上小学校のトイレには、車いす利用者など、幅広い利用を想定した広めの大便秘器、ブースも設置しました。すべての個室に、手すりも備えられています。

新しくなったトイレについて、学校が児童にアンケートを取りました。そこには「きれい」「明るい」「トイレで友達とお話するのが楽しい」など、喜びの声があふれていました。